

独立行政法人国立女性教育会館の平成30年度文部科学省業務実績評価の結果を踏まえた業務運営の改善等への主要な反映状況

中期計画項目	平成30年度業務実績評価における主要な指摘等	左記の指摘等を踏まえた令和元年度、2年度の改善の状況
<p>Ⅲ－1 自己収入の拡大 (1) PFI事業による運営権対価等の確保</p>	<p>・プロフィットシェアリングとして収益50%相当額の収入の確保に向け、引き続き、利用者の利便性の向上やサービスの充実、積極的な広報活動を図る等して施設の利用促進に努めること。</p>	<p>① 引き続きPFI事業を継続し、PFI事業者が様々な団体・機関と連携し、宿泊プランやインターネットエージェントを活用した利用申込導入や県内に限らず近隣他県の大学や企業、観光協会等を訪問することにより、新しい利用団体の獲得を目指した。</p> <p>② 令和元年度は、台風19号の影響を受けながらも、全体としては順調に推移し、令和2年1月時点では年間目標値を十分達成し、プロフィットシェアリングも令和元年度に引き続き、得られる見込みであった。</p> <p>しかし、新型コロナウイルスによる全国的な感染拡大の影響で2月上旬頃からキャンセルが急増し、年間目標値の達成やプロフィットシェアリングの獲得は困難となった。</p> <p>令和元年度は、宿泊施設利用率は46.7%（目標値48%）となった。</p> <p>② 令和2年度は、新型コロナウイルスによる影響を受け、当初、宿泊利用者が減少したが、埼玉県が新型コロナウイルス軽症者受け入れ施設として全館を借り上げたことで、宿泊施設利用率は54.3%（目標値50%）となった。</p>